

FLORA bd500

HITACHI
Inspire the Next

セットアップについて

500X7

このマニュアルは、FLORA bdの設置・接続から電源を入れるまでについて、『ユーザーズガイド』および『ソフトウェアガイド』より抜粋しております。

『ユーザーズガイド』および『ソフトウェアガイド』とあわせてお読みください。

マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
このマニュアルは、いつでも参照できるように、手近な所に保管してください。

2009年4月(初版)(廃版)
2010年2月(第3版)

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部または全部を、無断で転載または引用することを禁止します。
- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本製品を運用した結果については責任を負いません。なお、保証と責任については保証書裏面の「保証規定」をお読みください。

FLORA bd500 の信頼性について

ご購入いただきました FLORA bd500（以下、FLORA bd）は、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は意図されていませんし、保証もされません。このような高信頼性を要求される用途へは使用しないでください。高信頼性を必要とする場合には別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。

一般事務用 FLORA bd が不適当な、高信頼性を必要とする用途例
・ 化学プラント制御・医療機器制御・緊急連絡制御等

規制・対策などについて

□ 電波障害自主規制について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

□ 電源の瞬時電圧低下対策について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

□ 高調波電流規格：JIS C 61000-3-2 適合品について

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当りの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

□ 雑音耐力について

この装置の外来電磁波に対する耐力は、国際電気標準会議規格 IEC61000-4-3「放射無線周波電磁界イミュニティ試験」のレベル 2 に相当する規定に合致していることを確認しております。なお、レベル 2 とは、対象となる装置に近づけないで使用されている低出力の携帯型トランシーバから受ける程度の電磁環境です。

□ 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。

なお、ご不明の場合は弊社担当営業にお問い合わせください。

□ FLORA bd の廃棄について

事業者が廃棄する場合、廃棄物管理表（マニフェスト）の発行が義務づけられています。詳しくは、各都道府県産業廃棄物協会にお問い合わせください。廃棄物管理表は（社）全国産業廃棄物連合会に用意されています。

なお、弊社では事業者の使用済み FLORA bd の回収リサイクルサービスを行っています。詳細については「FLORA bd の廃棄についてのお問い合わせ」[P.7](#)をご参照ください。

個人が廃棄する場合、お買い求め先にご相談いただくか、地方自治体の条例または規則に従ってください。

また、FLORA bd のクライアントモジュール、コントロールボックスに入ってる電池を廃棄する場合もお買い求め先にご相談いただくか、地方自治体の条例または規則に従ってください。

登録商標・商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

Intel、Celeron および Core は、Intel Corporation の登録商標または商標です。

Sun、Sun Microsystems、Java は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Symantec Ghost は、Symantec Corporation の商標です。

i-フィルターは、デジタルアーツ株式会社の登録商標です。

その他、各製品名、各会社名は、各社の商標または登録商標です。

著作権について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

© Hitachi, Ltd. 2009, 2010. All rights reserved.

はじめに





このたびは日立の FLORA bd500（以下、FLORA bd）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このマニュアルは、クライアントモジュールを内蔵した FLORA bd の設置と接続から電源を入れるまでについて、『ユーザーズガイド』および『ソフトウェアガイド』より抜粋しております。

マニュアルの表記

□ マークについて

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。

 警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
注意	これは、装置の重大な損傷*、または周囲の財物の損傷もしくはデータの喪失を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。 *：「装置の重大な損傷」とは、システム停止に至る装置の損傷をさします。
 制限	装置の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項を示します。
 補足	装置を活用するためのアドバイスを示します。

□ オペレーティングシステム（OS）の略称について

本マニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

- Microsoft® Windows® XP Professional Blade PC Edition（1RDL Version）
（以下 Windows XP または Windows）
- Microsoft® Windows Vista® Business Blade PC Edition（1RDL Version）
（以下 Windows Vista または Windows）
- Microsoft® Windows® 7 Professional（以下 Windows 7 または Windows）

サポート & サービスのご案内

納入時の欠品について

納入時に、現地調整員が納品物の確認を行います。
調整作業を伴わない時や現地調整員が伺わない時に、欠品や納品内容にご不明な点などが発生した場合には、お買い求め先にご連絡ください。

困ったときは

- 1 マニュアルをご参照ください。
『ユーザーズガイド』の「8 困ったときには」をご参照ください。
製品同梱のほかの紙マニュアルもご利用ください。
- 2 最新情報を Web サイトで入手ください。
 - ◆ ホームページアドレス：
<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/product/cb/index.html>最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェア アップデートプログラムなどを提供することがあります。この場合、上記 Web サイトでご案内します。
各アップデートプログラムの適用についてはお客様責任にて実施していただきますが、FLORA bd を安全にご使用いただくためにも定期的にアクセスして、最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアへ更新いただくことをお奨めします。
- 3 電話でお問い合わせください。
障害の状態によっては、障害原因が特定できない場合があります。あらかじめご了承ください。
 - 販売会社からご購入いただいた場合
販売会社へ修理の窓口をご確認ください。販売会社で修理することがあります。
 - 上記以外の場合
次のお問い合わせ先に、お問い合わせください。

□ お問い合わせ先

- FLORA bd の操作や使いこなしについてのお問い合わせ
HITAC カスタマ・アンサ・センタ（HCA センタ）にお問い合わせください。技術的なお問い合わせについて回答します。ただし、各言語によるユーザプログラムの技術支援は除きます。

■ HITAC カスタマ・アンサ・センタ
TEL: 0120-2580-91（フリーダイヤル）
受付時間：月曜日～金曜日 9:00～12:00、13:00～17:00
*土、日、祝日、年末年始・夏季休暇などの弊社指定休日は休ませていただきます。
*電話での対応は国内に限らせていただきます。

- 故障についてのお問い合わせ
トラブルが発生した場合は、『ユーザーズガイド』「8 困ったときには」をご確認ください。故障と判断される場合は、日立コールセンタまたはご購入先にお問い合わせください。

■ 日立コールセンタ
TEL: 0120-921-789（フリーコール）
受付時間：9:00～18:00（平日）
*土、日、祝日、年末年始・夏季休暇などの弊社指定休日は休ませていただきます。
*電話での対応は国内に限らせていただきます。

- FLORA bd の廃棄についてのお問い合わせ
弊社では、事業者（法人所有）の使用済み FLORA bd の回収リサイクルサービスを行っています。詳細については、日立リサイクルホットラインにお問い合わせください。

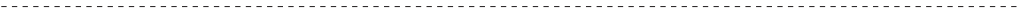
■ 日立リサイクルホットライン
TEL: 0120-12-5006（フリーダイヤル、携帯電話、PHS からも可）
受付時間：月曜日～金曜日 9:30～17:00（土・日・祝日、および弊社休業日を除く）
メールアドレス：e-kankyo@ml.itg.hitachi.co.jp
ホームページアドレス：<http://www.hitachi.co.jp/pc-recycle>
*電話での対応は国内に限らせていただきます。

- Windows のお問い合わせについて
インストールおよび各種設定項目などのお問い合わせについては、有償となります。詳細は、次で紹介しています。

■ Windows のお問い合わせ
メールアドレス：supportservice-soft@itg.hitachi.co.jp
ホームページアドレス：<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/service/index.html>

目次

重要なお知らせ	3
FLORA bd500 の信頼性について	3
規制・対策などについて	3
登録商標・商標について	4
著作権について	4
はじめに	5
マニュアルの表記	5
サポート & サービスのご案内	6
納入時の欠品について	6
困ったときは	6
目次	8
安全にお使いいただくために	10
一般的なご注意	11
電源・電源コードのご注意	13
設置時・増設時のご注意	14
運用時のご注意	17
警告ラベルについて	18
マニュアルの使いかた	20
マニュアルの内容	20
設置環境	22
制限事項	24
FLORA bd・周辺機器の使用環境	24
FLORA bd・周辺機器の取り扱い	24
FLORA bd ベースユニット / クライアントモジュールの組み合わせ	26
コンセントについて	26
FLORA bd の設置	28
FLORA bd のモジュール搭載	29
FLORA bd の接続	30
ディスプレイ・キーボードなどの接続	30
LAN ケーブルの接続	34
電源コードの接続	36
電源を入れる・切る	40
電源を入れる	40
電源を切る	41



**プレインストールモデル / ダウングレード代行サービス付モデルの
セットアップ 43**

- Windows Vista の場合 43
- Windows XP の場合 46
- Windows 7 の場合 49

安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全注意シンボルと「警告」および「注意」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージにしたがってください。



これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。



これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

注意

これは、装置の重大な損傷*、または周囲の財物の損傷もしくはデータの喪失を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

*:「装置の重大な損傷」とは、システム停止に至る装置の損傷をさします。



【表記例 1】感電注意

△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例 2】分解禁止

⊙の図記号は行ってはいけないことを示し、⊙の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。



【表記例 3】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順にしたがって行ってください。
- 装置やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。

これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。

装置について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

自分自身でもご注意を

装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作にあたっては、指示にしたがうだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

一般的なご注意

警告



修理・改造・分解

本書の指示にしたがって行うオプションなどの増設作業を除いては、自分で修理や改造・分解をしないでください。感電や火災、やけど、けがの原因となります。特に電源モジュール内部は高電圧が数多くあり、万一さわると危険です。



ダミーモジュール

- ダミーモジュールを取り外した状態ではご使用にならないでください。感電や火災の原因となります。また、冷却効果低下などによる装置の故障の原因となります。
- ダミーモジュールがない状態で動作中に、空きスロットへ手を入れないでください。けがをするおそれがあります。
- クライアントモジュールの移設などでクライアントモジュールを取り外す際は、別のクライアントモジュールまたはダミーモジュールを取り付けてください。冷却効果低下などによる装置の故障の原因となります。



装置内部への異物の混入

通気孔などから、内部にクリップや虫ピンなどの金属類や燃えやすい物、水など導電性物質を入れないでください。そのまま使用すると、感電や火災の原因となります。



落下などによる衝撃

落下させたりぶつけるなど、過大な衝撃を与えないでください。内部に変形や劣化が生じ、そのまま使用すると感電や火災の原因となります。



装置上に物を置く

花ピン、植木鉢などの水の入った容器や虫ピン、クリップなどの小さな金属類を置かないでください。水や金属などの導電性物質が内部に入った場合、そのまま使用すると感電や発煙、火災の原因となります。



電池の取り扱い

次のようなことは行わないでください。取り扱いを誤ると過熱・破裂・発火・液漏れなどでけがをしたり、発煙・火災の原因となります。

- 分解しない
- 100℃以上に加熱しない
- 焼却しない
- 水に濡らさない

交換はお買い求め先にご相談ください。

⚠ 注意



接続端子への接触

コネクタなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。金属片のある場所に置かないでください。発煙したり接触不良などにより故障の原因となります。



電池の取り扱い

次のようなことは行わないでください。取扱いを誤ると過熱・破裂・液漏れなどでけがや故障の原因となります。

- 指定以外の電池は使用しない
- 寿命以上に使用しない

交換はお買い求め先にご相談ください。



目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、装置本来の目的用途以外に使用しないでください。壊れたり倒れたりし、けがや故障の原因となります。



アルミ電解コンデンサについて

有寿命部品にはアルミ電解コンデンサを使用しているものがあります。

アルミ電解コンデンサは寿命があり、寿命を超えて使用すると電解液の漏れまたは枯渇により発煙や異臭の原因となることがあります。

これらの危険を避けるために、有寿命部品について、設計寿命を超える場合には交換してください。

なお、交換作業については保守員にご依頼ください。

注意



バックアップについて

ハードディスク装置のデータなどの重要な内容は、外部記憶装置（NAS など）にバックアップを取ってください。ハードディスク装置が壊れると、データなどがすべてなくなってしまうます。

電源・電源コードのご注意

警告



電源コンセントの扱い

- 電源コンセントは使用する電圧に応じ、指定のコードに合わせた電源コンセントをご用意ください。その他のコンセントを使用すると感電や火災の原因となります。
→「コンセントについて」P.26
- コンセントの接地極は、感電防止のために、アース線を専門の電気技術者が施工したアース端子に接続してください。接続しないと、万一電源の故障時などに感電するおそれがあります。



電源プラグの抜き差し

- 電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。電源コードを引っ張ると一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因となります。
- 休暇や旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。使用していないときにも通電しているため、万一、部品破損時には火災の原因となります。
- 電源プラグをコンセントから抜き差しするときは、乾いた手で行ってください。濡れた手で行うと感電の原因となります。



電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因となります。

- 電源プラグは根元までしっかり差し込んでください。
- 電源プラグはほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。付着している場合は乾いた布などで拭き取ってから差し込んでください。
- グラグラしないコンセントをご使用ください。
- コンセントの工事は、専門知識を持った技術者が行ってください。



タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因となるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。



電源コードの扱い

電源コードは指定のものを使用し、次のことに注意して取り扱ってください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出したり、ショートや一部断線で過熱して、感電や火災の原因となります。

- 物を載せない
- 引っ張らない
- 押しつけない
- 折り曲げない
- ねじらない
- 加工しない
- 熱器具のそばで使わない
- 加熱しない
- 束ねない
- ステップルなどで固定しない
- コードに傷がついた状態で使用しない
- 紫外線や強い可視光線を連続して当てない
- アルカリ、酸、油脂、湿気へ接触させない
- 高温環境で使用しない
- 定格以上で使用しない
- ほかの装置には使用しない

注意



使用する電源

使用できる電源は AC100V または AC200V のいずれかです。

設置時・増設時のご注意

警告



日本国以外での使用

この装置は日本国内専用です。電圧の違いや環境の違いにより、国外で使用すると火災や感電の原因となります。また他国には独自の安全規格が定められており、この装置は適合していません。



漏電遮断器の使用

漏電による感電を防ぐため、漏電遮断器を設置してください。設置しないと、万一電源の故障時などに感電するおそれがあります。設置については専門業者またはお買い求め先にご相談ください。



周辺機器や内蔵オプションの増設や接続

周辺機器や内蔵オプションを増設・接続するときは、特に指示がない限りすべての電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類を FLORA bd から抜いてください。感電や FLORA bd の故障の原因となります。

また、マニュアルの説明にしたがい、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器・内蔵オプション・ケーブルをご使用ください。それ以外のものを使用すると、接続仕様の違いにより周辺機器・内蔵オプションや FLORA bd の故障、発煙、発火や火災の原因となります。



高温の場所での使用

高温になる場所に設置したり、断熱材で覆ったりしないでください。発火の原因となります。



湿気やほこりの多い場所での使用

水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因となります。



梱包用ポリ袋について

装置の梱包用エアークラップなどのポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると窒息するおそれがあります。



電源モジュールについて

電源モジュールは、高電圧部分が内部にあるためカバーを開けないでください。感電や装置の故障の原因となります。



製品の取り扱い

製品は固定したラックに搭載してください。製品に寄りかかったり、上に乗ったりしないでください。また、床や壁などが弱い場所には設置しないでください。過度な振動は与えないでください。落ちたり倒れたりし、けがや故障の原因となります。

⚠ 注意



装置内部品の追加・交換

電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。装置内部品の追加・交換は約 10 分、時間を置いてから行ってください。やけどの原因となります。



金属など端面への接触

装置の移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、注意して触れてください。または、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。



不安定な場所での使用

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因となります。



ラック搭載について

FLORA bd をラックキャビネットに取り付けたり取り外したりする場合、作業は保守員にお任せください。

取り付け不備により FLORA bd が落下し、けがをしたり FLORA bd が故障するおそれがあります。



重量物の扱いについて

- 装置は重量物のため、移動する場合などは取り扱いに注意してください。腕や腰を痛める原因となることがあります。

- 装置などの重量物を移動したり持ち上げたりする場合は、リフターを使用し 2 人以上で作業してください。リフターがない場合には、クライアントモジュールおよび背面の各モジュールをいったんすべて取り出し、重量を軽くしてから 2 人以上でベースユニットを移動してください。この場合、ベースユニットの移動後、忘れずに各モジュールを取り付けてください。またラックキャビネットの 31U 以上に装置を取り付けたり取り外したりする場合は、リフターを使用してください。けがや故障の原因となります。



電源モジュールのカバーの高温について

電源モジュールは動作時カバーやハンドルが熱くなっています。障害が発生したモジュールを交換する場合などにご注意ください。やけどをするおそれがあります。



信号ケーブルについて

- ケーブルは足などをひっかけたり、ひっぱったりしないように配線してください。ひっかけたりひっぱったりするとけがや接続機器の故障の原因となります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。

- ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因となります。



電源モジュールベイについて

電源モジュールの増設・交換時、手や工具を電源モジュールベイ内部に差し入れないでください。

電源モジュールベイ内部には高電圧部があり、万一手や工具などで触れると感電や火災の原因となります。

注意



ねずみ対策について

ねずみなどによるコンピュータシステムの被害として次のようなものがあります。

- ケーブル類の被覆の破損断線
 - 機器内部の部品の腐食、接触不良、汚損
- これを防ぐため、ねずみ対策を専門業者にご相談いただき、実施してください。



地震対策について

地震などによる振動で装置の移動、転倒あるいは窓などからの飛び出しが発生し、重大な事故へと発展するおそれがあります。これを防ぐため、地震・振動対策を保守会社や専門業者にご相談いただき、実施してください。



障害電源交換時の電源コードの扱い

障害が発生した電源モジュール以外の電源コードを抜くとクライアントモジュールの電源が切れてしまい、データを消失するおそれがあります。障害が発生した電源モジュール以外の電源コードを抜かないでください。



クライアントモジュールの増設・移設

クライアントモジュールを FLORA bd ベースユニットが通電された状態で増設や移設する場合、搭載されているほかのクライアントモジュールに振動や衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。また、動作しているクライアントモジュールを誤って取り外さないようご注意ください。クライアントモジュールの故障やデータ消失の原因となります。



クライアントモジュールの取り扱いについて

- クライアントモジュールやメモリーボードを取り扱う場合は、金属製のドアノブなどに触れて静電気をあらかじめ取り除くか、綿手袋などを着用してください。静電気を取り除かないで電子部品に触れると、壊れるおそれがあります。
- クライアントモジュールに搭載されたハードディスクは精密機械です。振動や衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。また、クライアントモジュールを移設するときは電源を切り、30 秒以上待ってからクライアントモジュールを取り外してください。取り扱いを誤ると、ハードディスク故障の原因となります。
- クライアントモジュールからハードディスクを取り外すときは、ブラケットに刻印されている矢印方向にスライドさせてください。スライドさせる方向を誤ると、ハードディスク故障の原因となります。
なお、ハードディスクの取り外しは保守員が行います。
- クライアントモジュールのジャンパーピン設定は変更しないでください。正常に動作しない原因となります。



クライアントモジュールの交換

エラーが発生したクライアントモジュールの交換作業は、すべて保守員におまかせください。
誤った交換手順により、クライアントモジュールのデータを消失するおそれがあります。

運用時のご注意

警告



異常な熱さ、煙、異常音、異臭

万一異常が発生した場合は、電源を切り、装置のすべての電源プラグ(最大5本)をコンセントボックスユニットから抜いてください。そのまま使用すると感電、火災の原因になります。すぐに電源プラグを抜けるように、コンセントボックスユニットの周りには物を置かないでください。



通気孔

通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙、火災や故障の原因となります。また、通気孔は常にほこりが付着しないよう、定期的に点検し、清掃してください。



揮発性液体の近くでの使用

マニキュア、ペディキュアや除光液など揮発性の液体は、装置の近くで使わないでください。装置の中に入って引火すると火災の原因となります。



クリーニングについて

FLORA bd のクリーニングは、電源を切り、すべての電源コードを抜いた状態で行ってください。感電や FLORA bd の故障の原因となります。



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると発煙、発火や感電の原因となります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。

注意



屋外での使用

屋外では使用しないでください。故障の原因になります。



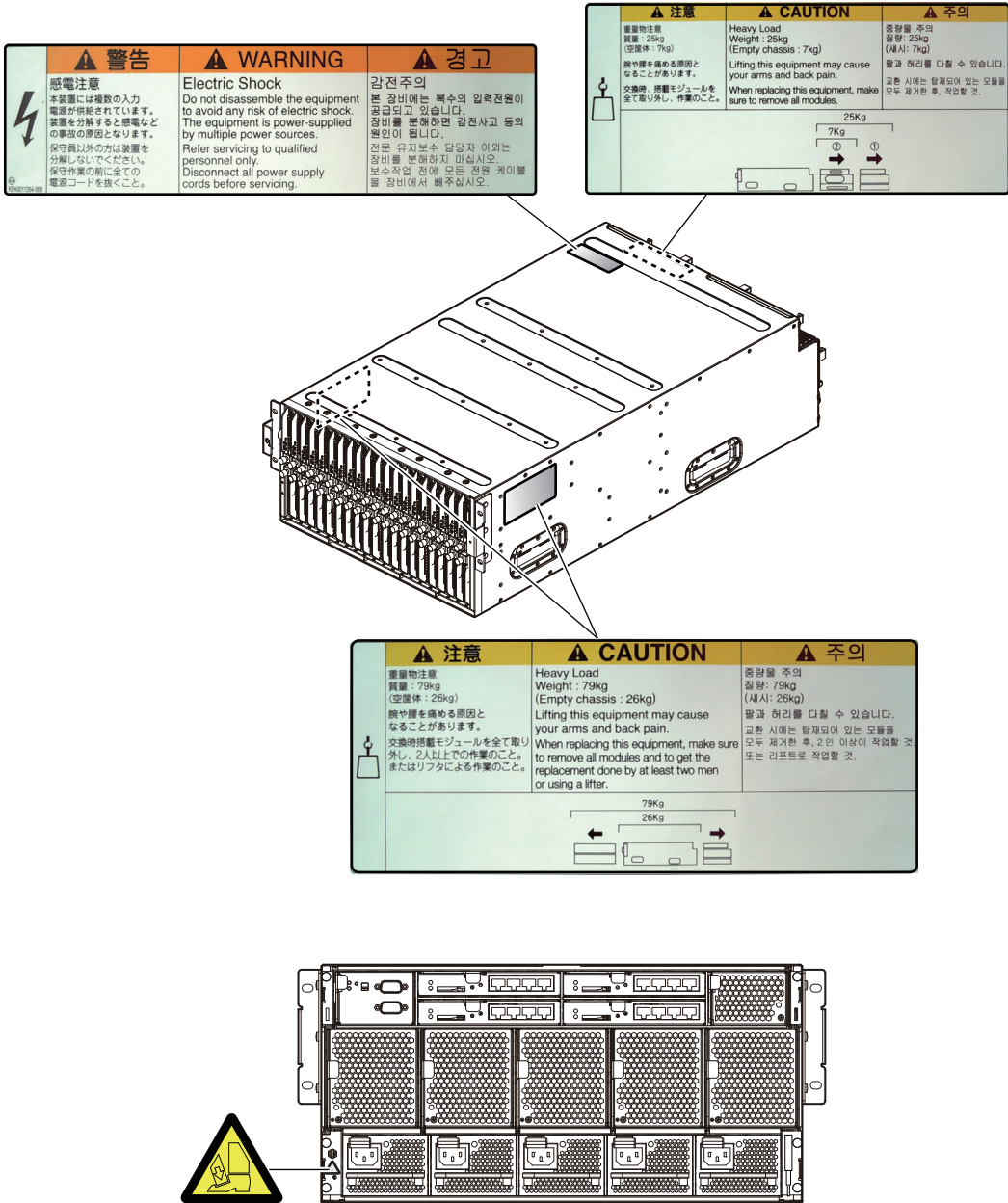
電源操作について

- シャットダウン処理を行う必要がある OS をご使用の場合、シャットダウン処理が終了してから電源を切ってください。シャットダウン処理が完了しないうちに電源を切ると、データを消失するおそれがあります。
- 電源操作は決められた手順に従って行ってください。決められた手順に従わずに電源を入れたり切ったりすると、クライアントモジュールの故障やデータ消失の原因となります。

警告ラベルについて

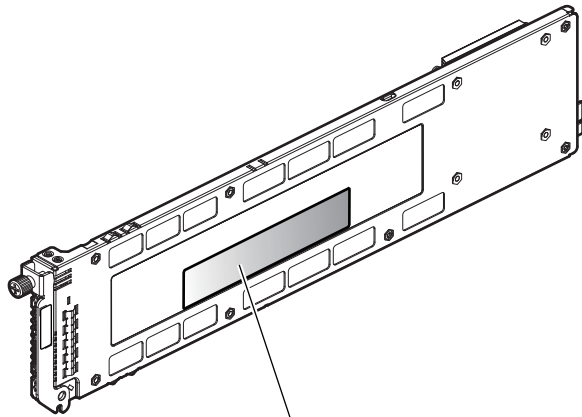
警告ラベルは次に示す箇所に貼り付けられています。


■ FLORA bd ベースユニット



このラベルは次の注意を意味します。
 「装置は重量物のため、取り扱いに注意してください。」

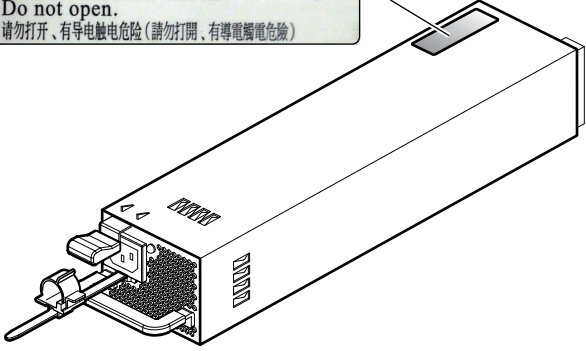
■ クライアントモジュール



▲ 注意	▲ CAUTION	▲ 주의
 <p>電池タイプの指定。 電池タイプを間違えると 爆発の危険有り。 電池交換時、製造者が 推奨したものと交換すること。 使用済の電池は製造者の 指示に従って廃棄すること。</p>	<p>Improper battery type. Improper type of battery used can cause explosion. Replace the battery with a proper one as recommended by the manufacturer. Dispose of the worn-out battery according to the manufacturer's instructions.</p>	<p>배터리 종류 지정. 다른 종류의 배터리를 사용하면 폭발할 위험이 있습니다. 배터리를 교체할 때는 제조업체가 권장한 배터리로 교체하십시오. 다른 배터리는 제조업체의 지시에 따라 폐기하십시오.</p>

■ 電源モジュール

	注意 CAUTION
	感電の危険あり、開くな。 Risk of electric shock. Do not open.
	请勿打开、有导电触电危险（请勿打开、有导电触电危险）



マニュアルの使いかた

ここでは添付されるマニュアルについて説明します。

マニュアルの内容

『ユーザズガイド』、『ソフトウェアガイド』の項目と内容は次のとおりです。網かけの項目は必ずお読みください。その他の項目は必要に応じてお読みください。

□ ユーザズガイド

項目	内容
サービス&サポートのご案内	困ったときの対処方法などについて説明しています。
安全にお使いいただくために	FLORA bd の安全に関する注意事項について説明しています。
マニュアルの使いかた	FLORA bd に添付されるマニュアルの使いかたを説明しています。
1 お使いになる前に	FLORA bd の概要や取り扱い上の注意について説明しています。
2 FLORA bd 各部の名称	FLORA bd の各部の名称と機能を説明しています。
3 FLORA bd の接続と電源の入れかた	FLORA bd を設置して、周辺機器を接続する方法を説明しています。電源の入れかたと切りかたについても説明しています。
4 FLORA bd 内蔵オプションの増設	FLORA bd にクライアントモジュールやオプションの内蔵機器を取り付ける方法を説明しています。
5 BIOS の設定	BIOS の設定について説明しています。
6 コントロールボックスモジュールの設定	コントロールボックスモジュールの設定について説明しています。
7 内蔵 LAN スイッチモジュールの設定	内蔵 LAN スイッチモジュールの初期導入時の操作について説明しています。
8 困ったときには	FLORA bd が正常に作動しないときの対処方法を説明しています。
9 お手入れと交換品	FLORA bd のクリーニング方法を説明しています。交換が必要となる部品について説明しています。
10 付録	FLORA bd の技術的な情報などを記載しています。

□ ソフトウェアガイド

項目	内容
サービス&サポートのご案内	困ったときの対処方法などについて説明しています。
1 クライアントモジュールをはじめて使うときは	クライアントモジュールにはじめて電源を入れたときの対処や、電源の入り切りについて説明します。
2 システムの運用と管理	OS がはじめて起動したあとに、システム運用の設定が必要です。ネットワークの設定などについて説明します。
3 ご購入時の状態に戻すには	クライアントモジュールを、ご購入時の状態に戻す方法を説明しています。
4 付属ソフトウェアについて	未セットアップのソフトウェアや、個別セットアップする場合などに、ご参照ください。

設置環境

FLORA bd の設置環境条件を次に示します。

警告

水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因となります。

注意

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因となります。

項目	許容範囲
温度	10～35℃ [非動作時：0～40℃]
湿度	20～80% [非動作時：10～90%] RH
湿球温度	最大 27℃ (結露のないこと)
塵埃	一般事務室程度
雰囲気	一般事務室条件 (腐食性ガス、多量の塩分などがないこと)
設置スペース	<p>保守エリア</p> <p>200mm 500mm</p> <p>ラックキャビネット</p> <p>ラックキャビネット</p> <p>ラックキャビネット</p> <p>前面</p> <p>背面</p> <p>1200mm 200mm 500mm 650mm *1</p> <p>常時確保エリア</p>

*1：地震対策でラックキャビネットを直接固定する場合は、800mm 必要です。

次のような場所には設置しないでください。

- 直射日光の当たる場所
- 温湿度変化の激しい場所
- 電氣的ノイズを発生する機器の近く（モータの近くなど）
- 強磁界を発生する機器の近く
- ごみ、ほこりの多い場所
- 傾いて水平にならない場所
- 振動の多い場所
- 腐食性ガス（亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアなど）や塩分を多量に含む空気が発生する場所
- 周囲が密閉された棚や箱の中などの、通気が妨げられる場所

・・・
補足

温度・湿度が25℃・50%の環境でご使用いただくことを推奨します。

制限事項

ここでは FLORA bd や周辺機器の使用環境、使用方法における制限を説明します。

FLORA bd ・ 周辺機器の使用環境

- FLORA bd は日立製ラックキャビネットに収納し、床と水平に設置してください。FLORA bd 単体やクライアントモジュール単体ではご使用にならないでください。故障や正常に動作しない原因となります。
- 寒い場所から室内に FLORA bd を持ち込んだ際は、結露などにより機器が破損するおそれがあります。すぐに電源を入れたりせず、5℃の環境から 25℃の環境に持ち込む場合、2時間ほど放置し、室温と装置がほぼ同じに安定してからご使用ください。
- 暑い場所では、しばらく空調などを使用し室温が一定してからご使用ください。
- 直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
- ほこりが多い場所では、使用しないでください。
- 極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
- FLORA bd や周辺機器は腐食性ガス（特に亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアガスなど）や塩分を多量に含む空気が発生しない場所に設置してください。腐食性ガスや塩分を多量に含む空気などは、FLORA bd の構成材の表面を化学的に腐食させます。そうすると、電子部品の接触抵抗が増加したり、可動部品の構造がもろくなり、FLORA bd の信頼性が著しく低下します。
- FLORA bd を使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。このときは、一度 FLORA bd の電源を切って再起動してください。

FLORA bd ・ 周辺機器の取り扱い

注意

ハードディスク装置のデータなどの重要な内容は、外部記憶装置（NAS など）にバックアップを取ってください。ハードディスク装置が壊れると、データなどがすべてなくなってしまいます。

- 流通商品のハードウェア（USB機器を含む）・ソフトウェア（他社から購入されるWindows も含む）を使用された場合、FLORA bd が正常に動作しなくなったり故障したりすることがあります。この場合の修理対応は有償となります。FLORA bd の安定稼働のためにも、サポートしている製品をご使用ください。

- システム起動中や使用中に、電源コードを抜いたり、クライアントモジュールを抜去すると、次回から起動しないことがあります。この場合はお買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。
- FLORA bd やクライアントモジュールは精密な電子部品で製造されていますので、衝撃を与えないでください。
- 磁石やスピーカなどの強い磁気を発生するものを近づけると、FLORA bd の故障の原因となります。
- ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は次のようにしてください。
 - ◆ テレビやラジオからできるだけ離す
 - ◆ テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える
 - ◆ コンセントを別にする
- FLORA bd やクライアントモジュールの電源を切ったら、再度電源を投入するまでに 30 秒以上、間隔を空けてください。間隔を空けないとクライアントモジュールが起動しないことがあります。
- 煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にシートなどで FLORA bd を完全に包んでください。FLORA bd 内部に入り込むと故障の原因となります。また、このとき FLORA bd の電源コードは抜いてください。
- じゅうたんのある部屋で FLORA bd を使用すると、それらの材質によっては静電気が発生し、FLORA bd に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい材質のものをお使いください。
- FLORA bd を輸送する場合、常に梱包を行ってください。梱包する向きにも注意してください。梱包しなかったり、間違った向きで輸送すると、FLORA bd の故障の原因となります。
なお、工場出荷時の梱包材の再利用は 1 回のみ可能です。
- 移動の際は周囲にぶつからないようにしてください。
- FLORA bd 背面および前面の通気孔をふさがないでください。通気が妨げられ、故障の原因となります。通気孔は常にほこりが付着しないよう定期的に点検し、清掃してください。
- FLORA bd やクライアントモジュールは、定期的なお手入れが必要となります。『ユーザーズガイド』9 章「クリーニングについて」を参照し、お手入れを行ってください。
- システム起動中、キーボードリセット（[Ctrl] + [Alt] + [Delete]）を実行しないでください。システムエラーとなります。
- 本システム装置の 25℃環境下における通常動作時の騒音値は 55dB 以下です。設置環境や設置場所により、騒音が大きいと感じられることがありますので、一般事務室に設置する場合には、環境や場所に十分ご注意の上、導入してください。
- オプション USB FDD のヘッドクリーニングは通常必要ありません。リードエラーなどが発生したときのみ行ってください。このとき、クリーニングメディアは市販のドライタイプ（乾式）をご使用ください。




FLORA bd ベースユニット / クライアント モジュールの組み合わせ

- ベースユニットに搭載可能なクライアントモジュールの組み合わせは次のとおりです。これ以外の組み合わせはサポートしておりません。

ベースユニット	クライアントモジュール
	500X7 モデル
2009年5月モデル GX0RF50*-**NNNNX （*は任意の英数字）	○

コンセントについて

- AC100V 使用時、FLORA bd およびコンセントボックスユニットが必要とするコンセントプラグおよびコンセント仕様は次のとおりです。仕様を満たすものをご使用ください。



電源仕様	コンセント形式・容量	形状	
		プラグ	コンセント
AC100V ± 10% 50Hz/60Hz ± 1Hz	2極接地極付コンセント 15A-125V	 (JIS-C-8303 *1)	 (JIS-C-8303 *2)  (IEC60083 A5-15)

*1: NEMA5-15P 相当です。





*2: NEMA5-15R 相当です。

- AC200V 使用時、FLORA bd およびコンセントボックスユニットが必要とするコンセントプラグおよびコンセント仕様は次のとおりです。仕様を満たすものをご使用ください。

[FLORA bd]

電源仕様	コンセント形式・容量	形状	
		プラグ	コンセント
AC200V ± 10% 50Hz/60Hz ± 1Hz	2 極接地極付コンセント 15A-250V	 (IEC60320-C14)	 (IEC60320-C13)

[コンセントボックスユニット]

電源仕様	コンセント形式・容量	形状	
		プラグ	コンセント
AC200V ± 10% 50Hz/60Hz ± 1Hz	2 極接地極付引掛形 コンセント 20A-250V *1	 (NEMA L6-20P)	 (NEMA L6-20R)
	2 極接地極付引掛形 コンセント 30A-250V *2	 (NEMA L6-30P)	 (NEMA L6-30R)

*1 電源ケーブル (GV-LG1042N) 使用時。

*2 電源ケーブル (GV-LG1045N) 使用時。

- 電源設備側コンセントは、電気用品安全法取得のコンセントをご使用ください。
- コンセントは活性導線 (L:Line)、接地導線 (N:Neutral)、接地 (G:Ground) からなります。ご使用前に、接地導線と接地が同電位であることをご確認ください。

FLORA bd の設置

ここでは FLORA bd の設置について説明します。

警告

- ダミーモジュールを取り外した状態ではご使用にならないでください。感電や火災の原因となります。また、冷却効果低下などによる装置の故障の原因となります。
- ダミーモジュールがない状態で動作中に、空きスロットへ手を入れないでください。けがをすることがあります。

注意

- 装置は重量物のため、移動する場合などは取り扱いに注意してください。腕や腰を痛める原因となることがあります。
- 装置などの重量物を移動したり持ち上げたりする場合は、リフターを使用し2人以上で作業してください。リフターがない場合には、クライアントモジュールおよび背面の各モジュールをいったんすべて取り出し、重量を軽くしてから2人以上でベースユニットを移動してください。この場合、ベースユニットの移動後、忘れずに各モジュールを取り付けてください。またラックキャビネットの31U以上に装置を取り付けたり取り外したりする場合は、リフターを使用してください。けがや故障の原因となります。
- FLORA bdをラックキャビネットに取り付けたり取り外したりする場合、作業は保守員にお任せください。取り付け不備により FLORA bd が落下し、けがをしたり FLORA bd が故障するおそれがあります。

□ 同梱品の確認

梱包を解いたら、『同梱品チェックリスト』ですべての添付品がそろっていることと、各部品に損傷がないことをご確認ください。不足している部品があるなどの問題があるときは、お買い求め先にご連絡ください。

□ 設置場所の確認と設置

「[設置環境](#)」P.22 を参照して設置場所の環境を確認し、設置場所を決定します。

ラックキャビネットの設置についてはラックキャビネットに添付の『ラックキャビネット取扱説明書』を参照し、装置の作業を行ってください。

なお、FLORA bd のラックキャビネットへの搭載は、保守員以外には行わないでください。搭載する必要がある場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

FLORA bd のモジュール搭載

ここでは FLORA bd を使用する上で必要となるモジュール数について説明します。

クライアントモジュールの搭載数および使用する LAN ポートにより、FLORA bd を構成するモジュールの必要数が異なります。

次の表を参考に、必要モジュール数をご確認ください。

必要モジュール数に満たない場合は増設が必要です。お問い合わせ先にご連絡ください。

クライアントモジュール *1		必要モジュール数				
搭載数	使用する LAN ポート	コントロールボックスモジュール	内蔵 LAN スイッチモジュール *1	システム冷却ファンモジュール	LAN スイッチ冷却ファンモジュール	電源モジュール *1
クライアントモジュールスロット 1～10、21～30 を使用し、合計 20 台以下	LAN1 のみ	コントロールボックスモジュールベイに 1 台 *2	内蔵 LAN スイッチモジュールベイ 1 に 1 台	システム冷却ファンモジュールベイ 1～5 に 5 台 *2	LAN スイッチ冷却ファンモジュールベイに 1 台 *2	電源モジュールベイ 1～3 に 3 台 *3
	LAN1、2 両方		内蔵 LAN スイッチモジュールベイ 1、3 に 2 台			
合計 21 台以上	LAN1 のみ		内蔵 LAN スイッチモジュールベイ 1、2 に 2 台			電源モジュールベイ 1～5 に 5 台
	LAN1、2 両方		内蔵 LAN スイッチモジュールベイ 1～4 に 4 台			

*1: スロット、ベイに空きがある場合は、忘れずにダミーモジュールを取り付けてください。

*2: 標準搭載されます。

*3: 電源モジュールベイ 4、5 に増設し、5 台構成としても問題なく動作します。

FLORA bd の接続

ここではディスプレイ、キーボード、LAN ケーブル、電源コードなどの接続方法を説明します。

警告

周辺機器や内蔵オプションを増設・接続するときは、特に指示がない限りすべての電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類を FLORA bd から抜いてください。感電や FLORA bd の故障の原因となります。

また、マニュアルの説明にしたがい、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器・内蔵オプション・ケーブルをご使用ください。それ以外のもを使用すると、接続仕様の違いにより周辺機器・内蔵オプションや FLORA bd の故障、発煙、発火や火災の原因となります。

ディスプレイ・キーボードなどの接続

接続構成例 1 または例 2、例 3 に従い、接続してください。



制限

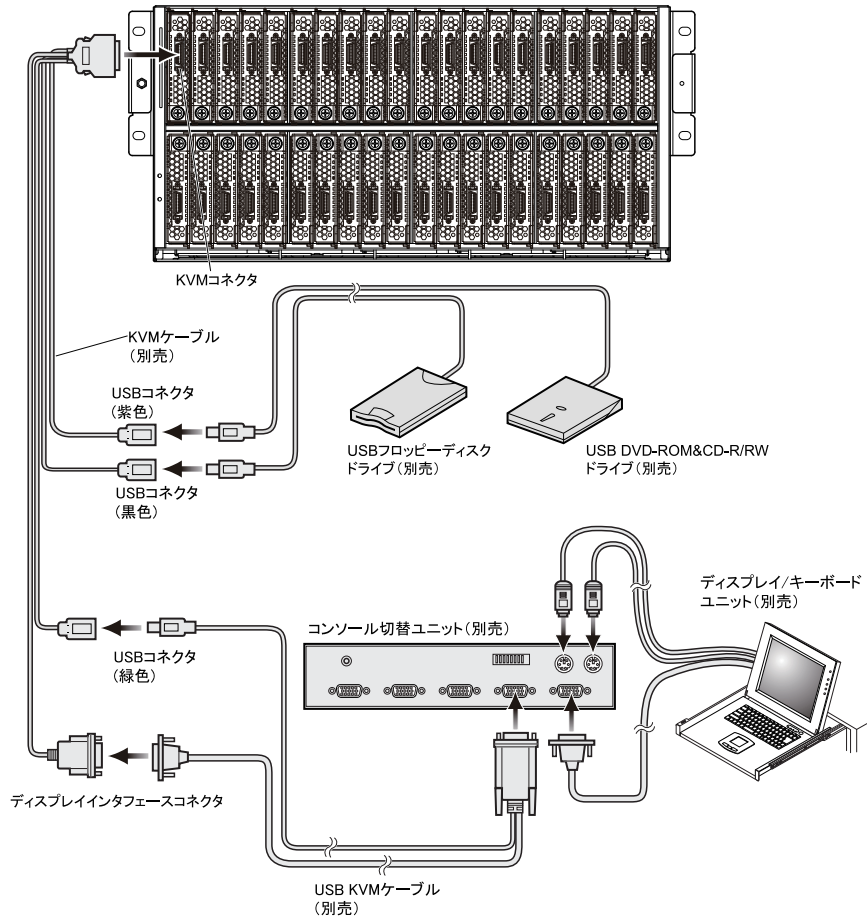
- OS を起動中に KVM ケーブルの接続または取り外しを行わないでください。正しく起動しないことがあります。
- オプション設定された機器以外の USB 機器は、接続しないでください。正常に動作しなかったり故障したりすることがあります。
- USB ケーブルは接続構成例のとおり接続してください。構成例とは異なるコネクタ色と USB 機器の組み合わせでは、正常に動作しなかったり故障したりすることがあります。
- KVM ケーブルに接続したマウスで OS 上から [スタート] メニューのスリープ(またはスタンバイ)を選択しないでください。クライアントモジュールがスリープ(またはスタンバイ)に移行せず、電源ランプが緑点灯のまま動作しなくなることがあります。

補足

- クライアントモジュールとディスプレイを KVM ケーブルにて接続した状態で、ネットワーク経由のリモートユーザ端末を使用すると、リモートユーザ端末側のディスプレイ解像度が、KVM ケーブルで接続したディスプレイの解像度以外に変更できなくなります。
この場合は、KVM ケーブルで接続したディスプレイを切り離れた上で、クライアントモジュールを再起動してください。
なお、KVM ケーブルで接続するディスプレイは、保守時以外クライアントモジュールに接続しないでください。
- OS を起動したあとに、KVM ケーブルを接続すると、ディスプレイに正しく表示されないことがあります。
この場合は、[Ctrl] + [Alt] + [F1] キーを押してください。
ただし、キーを押しても回復しない場合があります。

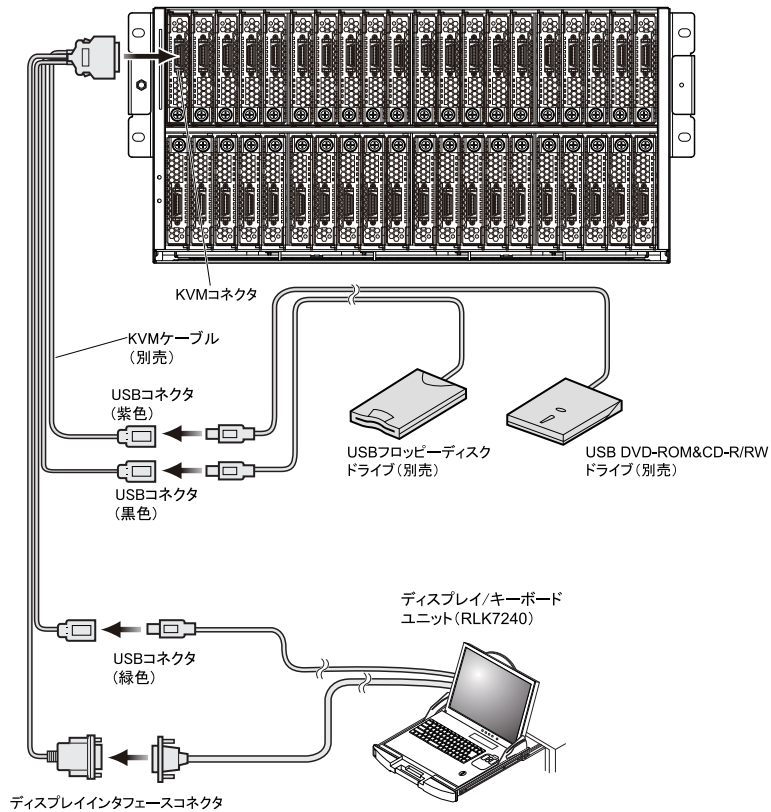
□ 接続構成例 2

KVM ケーブルと USB KVM ケーブル、コンソール切替ユニット付きディスプレイ / キーボードユニットは1ラックに1式、DVD-ROM & CD-R/RW ドライブ・FDDは1サイトに1式必要です。



□ 接続構成例 3

KVM ケーブルと USB KVM ケーブル、ディスプレイ / キーボードユニット (GQ-RLK7240) は 1 ラックに 1 式、DVD-ROM & CD-R/RW ドライブ・FDD は 1 サイトに 1 式必要です。



・・・
補足

ディスプレイ / キーボードユニット (RLK7240) に添付されているインタフェースケーブル (PS/2) とインタフェースケーブル (USB) を同時に接続し、動作させることはできません。

既設 / 増設のコンソール切替ユニットにディスプレイ / キーボードユニット (RLK7240) を接続する場合は、別売りの USB KVM ケーブル (LUB7113) が必要になります。詳細は「[接続構成例 2](#)」P.32 をご参照ください。

LAN ケーブルの接続

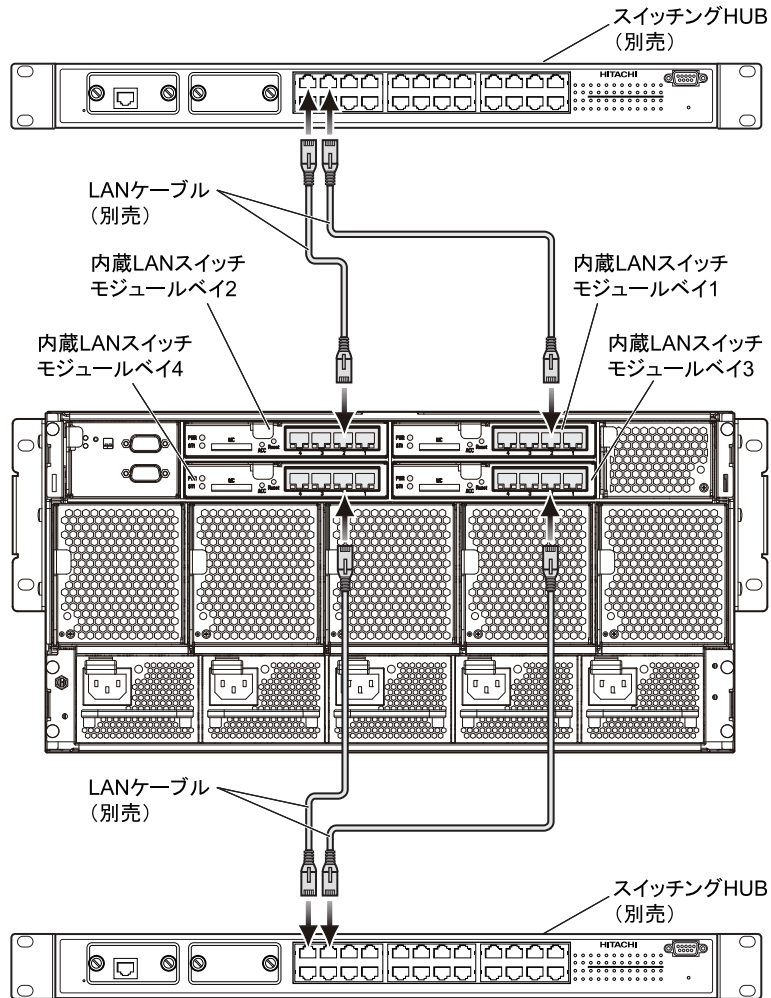
FLORA bd の内蔵 LAN スイッチモジュールとスイッチング HUB を LAN ケーブルで接続します。

内蔵 LAN スイッチモジュールの内部ポートと、クライアントモジュールの LAN ポートの接続構成については、『ユーザズガイド』7 章「クライアントモジュールとの接続形態」をご参照ください。



- LAN インタフェースコネクタへの LAN ケーブル接続は次のとおり扱ってください。取り扱いを誤ると、LAN インタフェースコネクタが破損したり、LAN ケーブルが破損・断線したりするおそれがあります。
 - ・ LAN ケーブルは RJ45/ISO8877 準拠のコネクタを使用したものをご使用ください。
 - ・ LAN ケーブルはネットワークインタフェースコネクタに負荷がかからないようにルーティングしてください。
 - ・ LAN ケーブルを抜くときは、ケーブル側コネクタのフックを押しながらまっすぐ抜いてください。
- 内蔵 LAN スイッチモジュールの LAN インタフェースコネクタ 1 は管理用に設定されています。設定変更しない限り、クライアントモジュールとの接続には使用できません。この場合 LAN インタフェースコネクタ 2、3、4 をご使用ください。
- 工場出荷時の設定では、内蔵 LAN スイッチモジュールの LAN インタフェースコネクタ 2、3、4 のうち、いずれか 1 ポートを外部スイッチング HUB に接続してください。複数ポートをお使いになる場合は、VLAN などを設定してください。
- クライアントモジュールの LAN1 と 2 を両方ご使用になる場合は、通常別セグメントに設定してください。その場合、内蔵 LAN スイッチモジュールベイ 1 と 3、および 2 と 4 はカスケード接続しないでください。
- 内蔵 LAN スイッチモジュールからスイッチング HUB への接続は、セグメントごとに別々のスイッチング HUB に接続してください。
- VLAN などを設定してご使用になる場合は、内蔵 LAN スイッチモジュールおよびスイッチング HUB を正しく設定・接続し、ネットワーク構築してください。

なお、必要となる内蔵 LAN スイッチモジュール数は、クライアントモジュールの搭載数および使用する LAN ポート数により異なります。詳細は「[FLORA bd のモジュール搭載](#)」 P.29 をご参照ください。



内蔵LANスイッチモジュールとクライアントモジュールスロットの対応位置については、『ユーザーズガイド』第4章「内蔵LANスイッチモジュールを取り付ける」 「取り付け位置」をご参照ください。

…
補足

上の図は、スイッチングHUBに接続した場合の一例です。

1つのラックキャビネットにFLORA bdを最大6台搭載する場合、内蔵LANスイッチモジュールの搭載数により必要となるスイッチングHUBのポート数は次のとおりです。

- 内蔵LANスイッチモジュール1台：最小6ポート
- 内蔵LANスイッチモジュール2台：最小12ポート
- 内蔵LANスイッチモジュール4台：最小24ポート

電源コードの接続

警告

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因となるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。

制限

- 電源コードはコンセントボックスユニットに接続してください。商用電源のコンセントに直接接続しないでください。
- AC100V 接続の場合、1台のコンセントボックスユニットに3本以上の FLORA bd の電源コードを接続しないでください。コンセントボックスユニットの定格電流をオーバーするおそれがあります。
- FLORA bd またはコンセントボックスユニットから電源プラグを抜いた場合、30 秒以上経過してから再接続してください。これを行わないと、FLORA bd が起動しないことがあります。
- 1台の FLORA bd に AC100V と AC200V の混在接続はしないでください。正常に動作しません。

補足

電源コードのプラグ形状や必要となるコンセント形状は、「[コンセントについて](#)」P.26 をご参照ください。

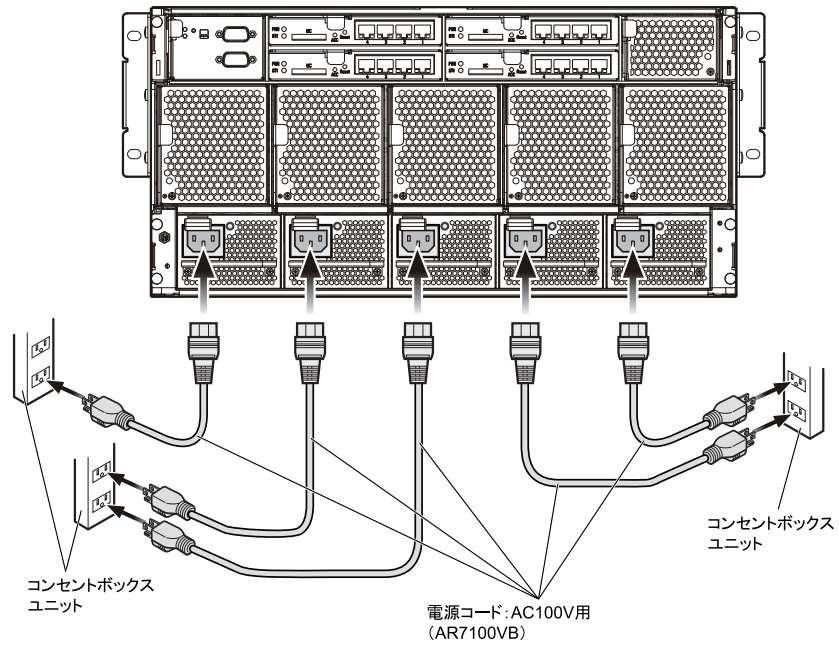
FLORA bd の電源モジュールに3本または5本の電源コードを接続すると、FLORA bd の電源が入ります。必要となる電源モジュール数は、クライアントモジュールの搭載数により異なります。詳細は「[FLORA bd のモジュール搭載](#)」P.29 をご参照ください。

コンセントは、AC100V 接続の場合2極接地極付の AC100V が必要です。また、AC200V 接続の場合2極接地極付の AC200V が必要です。

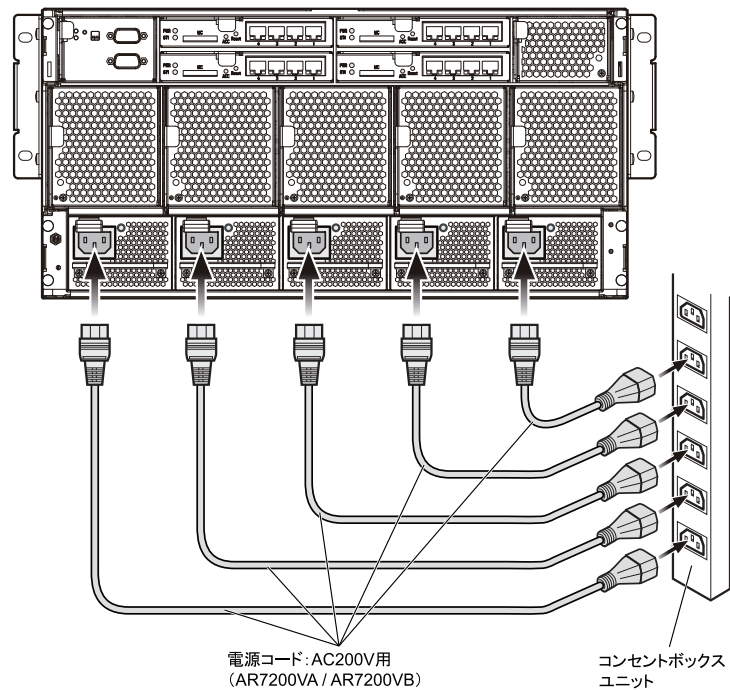
電源コードは、AC100V 接続用として1種類、AC200V 接続用として2種類あります。FLORA bd を接続する環境に合わせ選択してください。

形名	仕様
GX-AR7100VB	AC100V 用、1.5m
GX-AR7200VA	AC200V 用、2.5m
GX-AR7200VB	AC200V 用、0.9m

[AC100V 接続]



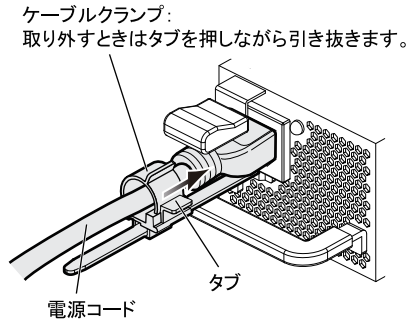
[AC200V 接続]



・・・
補足

電源モジュールがショートモードで故障した場合、コンセントボックスユニットのブレーカが作動し、コンセントボックスユニット全体の電源が遮断されます。FLORA bd の電源断を回避するには、電源コードを複数のコンセントボックスユニットに分散させる必要があります。

電源コードは脱落防止のため、FLORA bd に接続したあと電源モジュールにあるケーブルクランプで固定します。ケーブルクランプは電源コードを固定したあと、電源プラグの方向に押し込みます。



電源コードとコンセントボックスユニットの接続構成

FLORA bd の電源コードとコンセントボックスユニットは次のとおり接続してください。

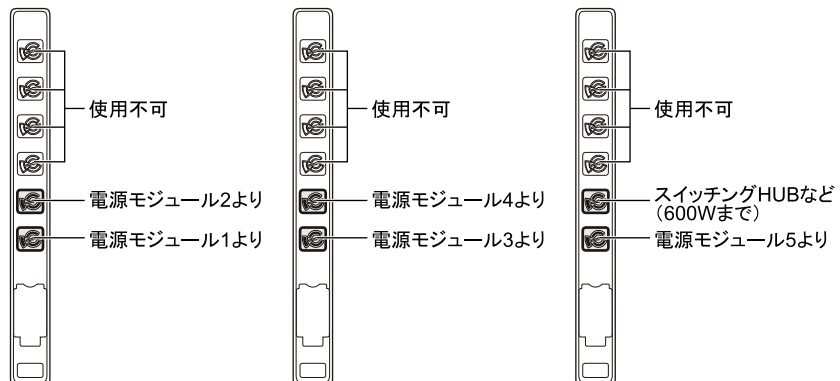


コンセントボックスユニットの出力定格を超えて接続しないでください。ブレーカが作動し給電されません。

■ AC100V 接続の場合

コンセントボックスユニット (GH-AG7107) 1 台に対して、FLORA bd の電源コードは 2 本までとします。

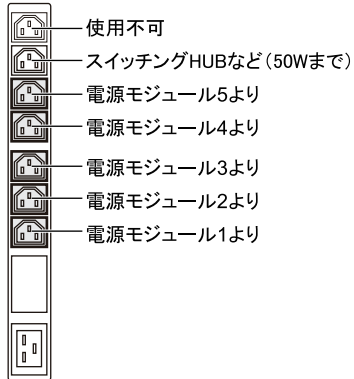
- 電源モジュール 1 台あたりの最大電流：約 6A
(電源モジュール 1 台が故障した場合 4 台動作となり、最大約 7.4A になります)
- コンセントボックスユニット (GH-AG7107) の出力定格：15A



■ AC200V 接続の場合

コンセントボックスユニット (GV-AG1207) 1 台に対して、FLORA bd の電源コードは 5 本まで (FLORA bd1 ユニット単独) とします。

- ◆ 電源モジュール 1 台あたりの最大電流：約 3A
(電源モジュール 1 台が故障した場合 4 台動作となり、最大約 3.7A になります)
- ◆ コンセントボックスユニット (GV-AG1207) の出力定格：16A



電源を入れる・切る

ここでは、クライアントモジュールの電源の入れかたと切りかたについて説明します。

注意

電源操作は決められた手順に従って行ってください。決められた手順に従わずに電源を入れたり切ったりすると、クライアントモジュールの故障やデータの消失の原因となります。

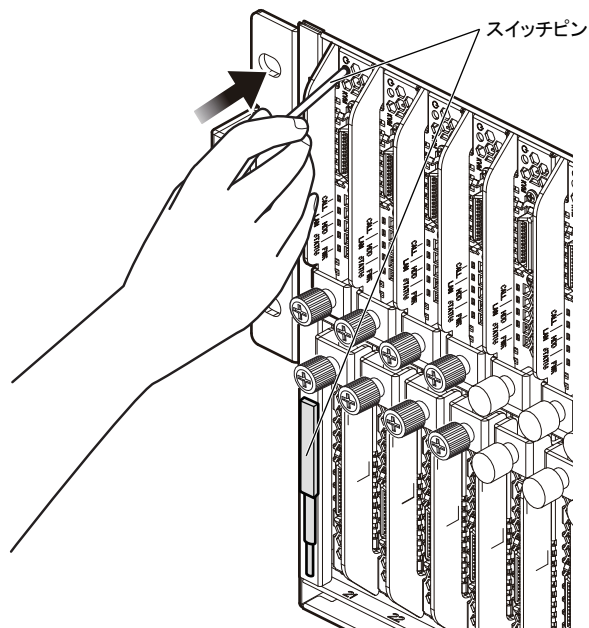


電源を切ってから入れるまで、または電源を入れてから切るまでは30秒間以上、間隔を空けてください。クライアントモジュールが起動しないことがあります。

電源を入れる

電源を入れる前に、使用している電源コードに合わせて、コンセントやコンセントボックスユニットにAC100VまたはAC200Vが給電されていることをご確認ください。

- 1 KVM ケーブルに接続したディスプレイなどの周辺機器の電源を入れます。
- 2 フロントパネルの電源（PWR）ランプが橙色に点灯したあと、フロントパネルの電源スイッチを付属のスイッチピンで4秒未満押しします。





制限

電源スイッチは、添付のスイッチピンを使用して、ゆっくり押ししてください。添付以外のものを使用したり乱暴に行ったりすると、故障の原因となります。



補足

- スイッチピンは大事に保管してください。シャーシにはスイッチピンを固定する穴があいています。ご購入時には、ここに取り付けられています。
- クライアントモジュールスロット 1～20（上段）と、21～40（下段）に搭載するクライアントモジュールの向きは、上下逆になります。

- 3 はじめて電源を入れたときには、「[プレインストールモデル / ダウングレード代行サービス付モデルのセットアップ](#)」P.43 を参照し、初期設定を行います。

電源を切る

ここでは、ハードウェアによる電源の切りかたについて説明します。

OS（ソフトウェア）による電源の切りかたについては、『ソフトウェアガイド』「1 クライアントモジュールをはじめて使うときは」「電源を入れ直す」をご参照ください。

注意

シャットダウン処理を行う必要がある OS をご使用の場合、シャットダウン処理が終了してから電源を切ってください。シャットダウン処理が完了しないうちに電源を切ると、データを消失するおそれがあります。



制限

周辺機器によっては、FLORA bd よりも前に電源を切る必要がある場合があります。詳しくは周辺機器に添付のマニュアルをご参照ください。

- 1 フロントパネルの電源（PWR）ランプが緑色に点灯していることを確認し、電源スイッチを付属のスイッチピンで 4 秒未満押しします。

電源が切れると、フロントパネルの電源（PWR）ランプが橙色に変わります。



補足

OS をシャットダウンして終了した場合、電源も切れます。ここでの操作は必要ありません。

□ 強制的に電源を切る

OS が正常に作動しなくなったときなど、クライアントモジュールのシャットダウン処理／パワーダウン処理が正しくできないことがあります。この場合、電源スイッチを付属のスイッチピンで 4 秒以上押し、電源を切ることができます。

なお、強制的に電源を切った場合は、その後 OS・アプリケーションが正常に動作しなかったり、保存データの安全性に問題が生じたりすることがあります。このような場合、OS・アプリケーションの再セットアップや、バックアップデータからの復旧を行ってください。

プレインストールモデル / ダウングレード代行サービス付モデルのセットアップ

はじめてクライアントモジュールの電源を入れるときは、Windows の使用許諾契約に同意して、Windows を使えるようにする必要があります。

Windows Vista の場合

クライアントモジュールにディスプレイ / キーボードが接続されているか確認します。クライアントモジュールの電源スイッチを押すと、ディスプレイに [ライセンス条項をお読みになってください] 画面が表示されます。

補足

はじめて電源を入れるときは、セットアップが完了するまで、クライアントモジュールを長時間放置しないでください。
電源の入れかた → [「電源を入れる」 P.40](#)

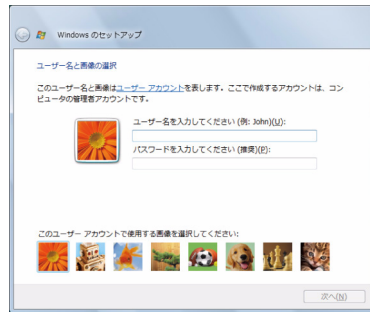
- 1 [Windows のセットアップ] の [ライセンス条項をお読みになってください] で、
[ライセンス条項に同意します] にチェックをつける。

補足

- Windows 起動時は、ディスプレイの周波数を変更しているため、画面が乱れることがあります。
- 画面に表示されている矢印を、「マウスポインター」と呼びます。
- マウス左側のボタンを 1 回押すことを、「クリック」といいます。

- 2 [次へ] ボタンをクリックする。
[ユーザー名と画像の選択] が表示される。

- 3 [ユーザー名] を入力し、必要に応じて [パスワード] (省略可能) を入力し、このユーザーアカウントで使用する画像を選択する。



補足

日本語を入力するには

- 1 [半角 / 全角] キーを押し、日本語入力にする
- 2 ローマ字で読みがなを入力する
- 3 目的の漢字になるまでスペースキーを押す
- 4 [Enter] キーで確定する

- 4 [次へ] ボタンをクリックする。

[コンピューター名を入力して、デスクトップの背景を選択してください] が表示される。

- 5 [コンピューター名] を入力し、デスクトップの背景を選択する。

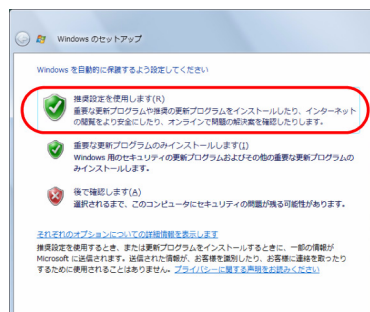
補足

コンピューター名は初期設定後でも変更できます。

- 6 [次へ] ボタンをクリックする。

[Windows 自動的に保護するように設定してください] が表示される。

- 7 [推奨設定を使用します] を選択し、クリックする。



[お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください] が表示される。

8 使用環境に応じて、[家庭]、[職場]、[公共の場所] から選択し、クリックする。



補足

この設定値を保存するには、その接続のデフォルトゲートウェイを設定する必要があります。デフォルトゲートウェイの設定には、DHCP を使用することも可能です。

9 [ありがとうございます] が表示されたら、[開始] ボタンをクリックする。

セットアップが開始される。

終了すると、Windows のデスクトップが表示される。

Windows XP の場合

クライアントモジュールにディスプレイ / キーボードが接続されているか確認します。
クライアントモジュールの電源スイッチを押すと、ディスプレイに [Windows XP Professional セットアップ] 画面が表示されます。

補足

- はじめてクライアントモジュールに電源を入れるときは、ディスプレイ / キーボードを接続してください。接続していないと、ディスプレイに正しく表示されないことがあります。この場合は、『ソフトウェアガイド (Microsoft Windows XP 編)』1 章「ディスプレイに画面が表示されないときには」をご参照ください。
- はじめて電源を入れるときは、セットアップが完了するまで、クライアントモジュールを長時間放置しないでください。
電源の入れかた→「電源を入れる」P.40

- 1 [Windows XP Professional セットアップ] で、マウスポインターを [次へ] ボタンに重ね、クリックする。

[ライセンス契約] 画面が表示される。

補足

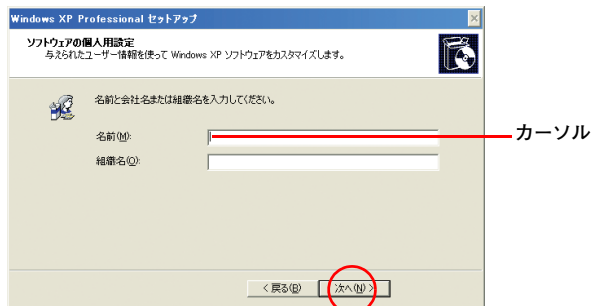
- Windows 起動時は、ディスプレイの周波数を変更しているため、画面が乱れることがあります。
- 画面に表示されている矢印を、「マウスポインター」と呼びます。
- マウス左側のボタンを 1 回押すことを、「クリック」といいます。

- 2 [同意します] ボタンをクリックして、[次へ] ボタンをクリックする。

[ソフトウェアの個人用設定] の入力画面が表示される。

- 3 名前を入力する。必要に応じて [Tab] キーで [組織名] へカーソルを移動し、組織名を入力する。組織名は省略してもよい。

[次へ] ボタンをクリックする。

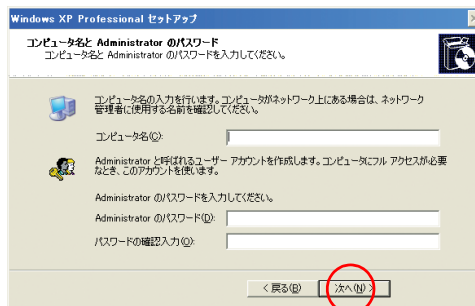


[コンピュータ名と Administrator のパスワード] の入力画面が表示される。

補足

- 日本語を入力するには
 - 1 ローマ字で読みがなを入力する
 - 2 目的の漢字になるまでスペースキーを押す
 - 3 [Enter] キーで確定する
- 操作を間違えたときは、画面の [戻る] ボタンをクリックします。一つ手前の画面に戻ります。

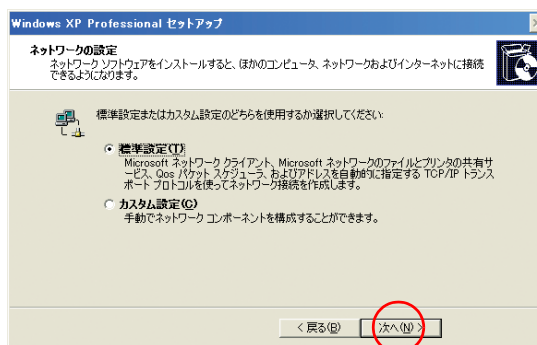
- 4 コンピュータ名を入力する。コンピュータ名はネットワークのほかのコンピュータ名、ドメイン名、ワークグループ名と異なる名称にする。
必要に応じてパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする。



補足

コンピュータ名は初期設定後でも変更できます。

- 5 標準のネットワークコンポーネントをインストールする場合は [標準設定] を選択したあと、[次へ] ボタンをクリックする。
標準ネットワークコンポーネントの設定を変更する場合やネットワークコンポーネントの追加/削除を行う場合は [カスタム設定] を選択したあと、[次へ] ボタンをクリックする。



補足

- [標準設定] を選択した場合、ネットワークの設定は自動で行われます。
- 標準で次のネットワークコンポーネントをインストールします。
 - * Microsoft ネットワーク用クライアント
 - * Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
 - * インターネットプロトコル (TCP/IP)

- 6 [カスタム設定] を選択した場合、ネットワークの設定を手動で行う。

[ネットワークの設定] 画面の設定終了後、[ワークグループまたはドメイン名] 画面が表示される。

…
補足

ネットワークコンポーネントのカスタム設定は画面の指示に従って行ってください。

- 7 ドメインまたはワークグループへの参加の選択を行い、参加する先のドメイン名またはワークグループ名をテキストボックスに入力する。

[Windows XP セットアップウィザードの完了] 画面が表示される。

- 8 [完了] ボタンをクリックする。

クライアントモジュールが立ち上げ直され、ネットワーク識別ウィザードの画面が表示される。

- 9 [次へ] ボタンをクリックする。

- 10 Windows のログオン時に常にユーザー名およびパスワードの入力を行うのかどうかを選択する。

- 11 [次へ] ボタンをクリックする。

- 12 [完了] ボタンをクリックする。

- 13 自動または手動で Windows にログオンする。

- 14 必要に応じて、パーティションを設定する。

…
補足

HDD は、ご購入時の選択により、工場出荷時に次のように設定されています。

ドライブ C : 25GB、残りをドライブ D

- 15 必要に応じてネットワークの設定を変更する。

…
補足

ネットワークをご使用の場合は環境に合わせて変更する必要があります。

Windows 7 の場合

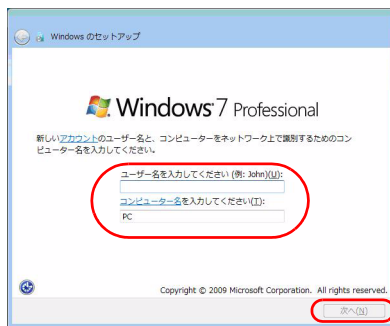
クライアントモジュールにディスプレイ / キーボードが接続されているか確認します。
クライアントモジュールの電源スイッチを押すと、ディスプレイに [新しいアカウントのユーザー名と、コンピューターをネットワーク上で識別するためのコンピューター名を入力してください] 画面が表示されます。

補足

はじめて電源を入れるときは、セットアップが完了するまで、クライアントモジュールを長時間放置しないでください。

電源の入れかた→「電源を入れる」P.40

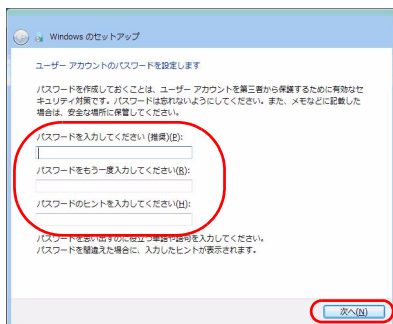
- 1 [Windows のセットアップ] の [新しいアカウントのユーザー名と、コンピューターをネットワーク上で識別するためのコンピューター名を入力してください] 画面で、[ユーザー名] と [コンピューター名] を入力する。



補足

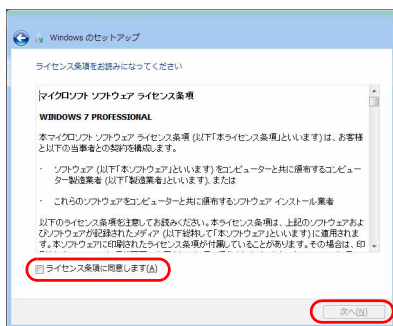
- Windows 起動時は、ディスプレイの周波数を変更しているため、画面が乱れることがあります。
 - 画面に表示されている矢印を、「マウスポインター」と呼びます。
 - マウス左側のボタンを 1 回押すことを、「クリック」といいます。
 - コンピュータ名は初期設定後でも変更できます。
 - 日本語を入力するには
 - 1 [半角 / 全角] キーを押し、日本語入力にする
 - 2 ローマ字で読みがなを入力する
 - 3 目的の漢字になるまでスペースキーを押す
 - 4 [Enter] キーで確定する
- 2 [次へ] ボタンをクリックする。
[ユーザーアカウントのパスワードを設定します] が表示される。

- 3 [パスワード] (省略可能) を入力し、[次へ] ボタンをクリックする。



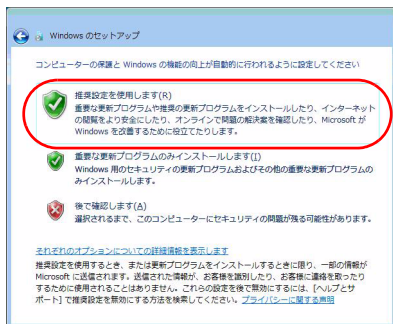
[ライセンス条項をお読みになってください] が表示される。

- 4 [ライセンス条項に同意します] にチェックをつけて、[次へ] ボタンをクリックする。



[コンピュータの保護と Windows の機能の向上が自動的に行われるように設定してください] が表示される。

- 5 [推奨設定を使用します] を選択し、クリックする。



[お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください] が表示される。

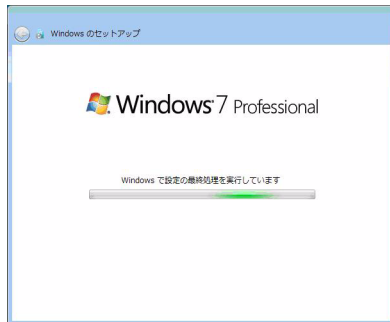
6 使用環境に応じて、[ホームネットワーク]、[社内ネットワーク]、[パブリックネットワーク] から選択し、クリックする。



補足

この設定値を保存するには、その接続のデフォルトゲートウェイを設定する必要があります。デフォルトゲートウェイの設定には、DHCP を使用することも可能です。

[Windows で設定の最終処理を実行しています] 画面が表示され、セットアップが開始される。



終了すると、Windows のデスクトップが表示される。

FLORA bd500 セットアップについて

初 版 2009年4月
第3版 2010年2月
無断転載を禁止します。

株式会社 日立製作所 エンタープライズサーバ事業部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

<http://www.hitachi.co.jp>



このマニュアルは再生紙を使用しています。

FB50073000-3